

## 平成28年度 辰野町観光開発審議会議事録(要約)

会 議 名	辰野町観光開発審議会
開 催 日 時	平成29年2月7日(火) 13時30分 ~ 14時30分
場 所	役場第6会議室
参 集 者	(町長1名:識見を有する者5名:町議会議員2名:町職員2名:事務局4名)
出 席 者	加島 範久(辰野町 町長)
	福島 英雄(辰野町商工会 会長)
	板倉 健(辰野町観光協会 会長)
	松井 夏穂(たつのパークホテル 支配人)
	原 芳弘(JR辰野駅 駅長)
	森本 健一(会長:信州豊南短期大学 学長)
	宮下 敏夫(辰野町議会 議長)
	根橋 俊夫(辰野町議会 総務産業常任委員長)
	山田 勝己(辰野町 まちづくり政策課 課長)
	一ノ瀬 敏樹(辰野町 産業振興課 課長)
	菅沼 隆之(辰野町 産業振興課 観光係 係長)
	木田 耕一(辰野町 産業振興課 観光係)
	井澤 優矢(辰野町 産業振興課 観光係)
長田 真紀(辰野町 産業振興課 観光係)	
会 議 次 第	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 開会</li> <li>2. 委員委嘱</li> <li>3. 町長あいさつ</li> <li>4. 会長選出(条例第5条により互選)</li> <li>5. 会長あいさつ</li> <li>6. 報告事項             <ul style="list-style-type: none"> <li>(1)平成28年度観光関連事業について</li> </ul> </li> <li>7. 審議事項             <ul style="list-style-type: none"> <li>(1)「辰野町まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づく今後の観光施策について                 <ul style="list-style-type: none"> <li>・推進すべき具体的施策</li> </ul> </li> <li>(2)その他</li> </ul> </li> <li>8. その他</li> <li>9. 閉会</li> </ol>
<b>議 事 録</b>	
一ノ瀬課長開会	これより辰野町観光開発審議会を開会します。
加島町長あいさつ	観光は窓口が広く地域、上伊那、県、国が目的を持って取り組み、考えていかなければいけない。地域が住みやすい、誇らしい町にしていくことの方策として観光もひとつの手である。観光は「来てもらって良かった」ではなく、地域が潤う仕組みの組立が必要である。審議会で皆様からご意見をいただきながら考えていきたい。
一ノ瀬課長	会長選出について。森本健一信州豊南短期大学学長を会長に選出することを事務局として提案する。(全員一致で会長選出)

森本会長あいさつ	豊南短期大学では、観光おもてなし通訳ガイドの養成講座を開講した。知恵を出していくことが最終的に伸びていく。辰野町には山ほど宝があるが、立体的につながっていないと思われる。様々なものが連動していく必要があり、そのつながりが6次産業へと結びついていくのではないかと。十一面観音、辰野美術館の土偶など歴史的価値ある宝物があるが、情報発信の力が物足りないと思われる。来てもらうためにはどうすれば良いか。人づくり、まちづくりが観光になることを踏まえ、考え行動に移していくことが必要である。
菅沼係長	「辰野町まち・人・しごと創生総合戦略」第2版の改定に向けて、今後推進すべき観光施策について審議いただきたい。
原駅長	観光情報センター「パルTIS」があった時は、観光案内所的な役割をしていたと思われるが、施設の利用目的が変わってからは観光案内を提供する場所がなくなってしまった。町内のイベント等、情報伝達ができているので、情報交換の場を設置してほしい。列車の乗り継ぎ時間があるため、食事のできる店舗や、短時間で散策できる場所がないか問い合わせがあるが案内ができない。駅の待合室に空スペースがあるので、観光発信の場所として有効活用できれば良いのではないかと。辰野町の名品を展示してあるが、製造元などの紹介をすると良いと思う。来年の第70回ほたる祭りは節目でもあるので、デザイン列車を運行してみてもどうか。各路線に列車が走ることでPRに役立てると思うので検討してみてもどうか。定期券購入者に対して、町内施設の割引券等、粗品として渡せるものがあれば駅の利用者も増えるのではないかと。
山田課長	パルTISは、信州フューチャーセンターとして一般社団法人タグポートが運営をしており、またインターンシップ事業等を展開している。今後は指定管理者制度を適用して、平日は常駐者がいるようになるため、町内の案内等利用が可能となってくる。
森本会長	観光客はパンフレット、案内所等、情報発信の場を求めている。駅に観光サイトの検索ができる環境を整備していく必要がある。人口減に対して、観光産業で盛り返していくことも大切である。飯田線の魅力を活かしていく。辰野町には売れるものがたくさんある、それをフィルムコミッションやプロモーション化等につなげていけないか。辰野町が来て帰るだけの町ではなく、その人の心に何か残してあげられる町になりたい。
一ノ瀬課長	観光、移住定住のプロモーション用動画を作成中である。
板倉協会会長	観光情報の発信が遅い。リアルタイムでの発信をしていくべきである。情報発信は全て一緒にするのではなく、項目ごとに分けたほうが良い。子ども目線で発行している「たつのこども広報」は町を知る、町に関心をもってもらうために意義あるものである。町のことについて、町民が答えられるようにしていかなければならないと思う。駅内に、観光案内のできるスペースを提供していただけるようなら、観光案内所等活用をしていきたい。
森本会長	基本的に情報発信をしないと人が来ない。人が来ないと町は発展しない。町外に出ていた人が、戻ってくる町にしていかなければならない。「辰野町は良いところですよ」と言われるように、自慢できるものを発信していただきたい。
宮下議長	首都圏在住の辰野町出身者でつくる東京朝日会とふるさと辰野会は東京を会場に開催されているが、隔年でもよいのではほたる祭りの時季等1泊程度の日程で辰野町で開催をしてはどうか。過ぎし日に思いを馳せながら町内を歩いてもらうのも良いと思う。辰野中学校吹奏楽部の活躍が目覚ましい中、マーチングなどで交流のある茨城県大洗町との親交関係を築いていけたら、人の交流もでき町の活性化につながるのではないかと。創生総合戦略の中の新たな交流機会の創出に4月開校の通信制高校との連携も検討していただきたい。
板倉協会会長	新たな友好都市をつくっていったら良いのではないかと。人の流れができる。
山田課長	民間主導で友好都市を考えていければと思う。ふるさと納税も、今年度は2,496人約1億2千万円と顕著な数字となっている。返礼品は65品目、観光協会の認定特産品も17品目あり、松茸、ぎたろう軍鶏、日本酒など人気がある。返礼品については、辰野ブランドの発展をしていきたいと考えている。
森本会長	「ふるさと寄付渡」で人気の松茸、ぎたろう軍鶏、夜明け前を試飲、試食してもらえるような仕掛け(設備)を今から考えてみてはどうか。

一ノ瀬課長

本日審議いただいた内容を、「辰野町まち・人・しごと創生総合戦略」第3版に反映していきたい。

|